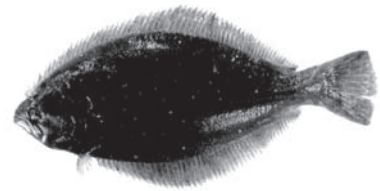


ヒラメ

Paralichthys olivaceus

地方名
あおば、てっくい



生態

- ①寿命：オス19歳以上、メス20歳以上。
- ②成熟年齢：オス2歳以上、メス3歳以上。
- ③産卵期・産卵場：5月～7月。
水深30m以浅の粗砂及び砂礫地帯。
- ④分布：千島列島から九州、東シナ海に分布。
- ⑤生態：産卵後1～2日でふ化し、約1ヶ月間の浮遊期間の後に水深10m以浅の砂または砂泥域に着底し、成長に伴い深所へ移動する。生息域は水深100m以浅の海域。季節的に深浅移動する。稚魚はアミ類を主に摂餌し、成長とともに魚類、イカ類を捕食する。

主な漁業

ヒラメはほぼ周年にわたって県内全域で漁獲される。日本海から津軽海峡西部にかけては5月～7月に底建網・釣り、陸奥湾から太平洋北部にかけては5月～7月及び11月～翌年1月に定置網・底建網・刺網で、太平洋南部では9月～10月に刺網で、11月～翌年5月に小型底びき網で漁獲される。1～2歳から漁獲される。

漁獲と資源の動向

本県の漁獲量は昭和52年から平成元年にかけて減少したが、その後増加し平成12年に過去最高の1,807トンとなった。翌年から平成16年まで減少した後、平成19年にかけて増加した。平成20、21年と減少したが、平成22年には1,374トンに増加した。

(日本海)

これまでの調査結果から発生量が多ければ漁獲尾数が多い傾向がみられる。平成3～19年級群のうち、16年級群の発生量は過去2番目に多く、日本海で全てが漁獲対象となる2歳魚の漁獲尾数は過去最高であった。18年級群の発生量は過去2番目に低かったが、2歳魚の漁獲尾数は平年並みとなり、これまでの傾向と異なった。平成20年の発生量は過去最高で漁獲尾数も平年より多かったが、期待していたほどの漁獲につながっていない。

*着底指数：発生量の指標値。つがる市沖で夏期に着底稚魚調査を実施。水深ごとの平均分布密度（個体/1,000m²）の年最高値。

*年齢別漁獲尾数は7月から12月と1月から6月の2期に分けて、大戸瀬・鯉ヶ沢地区の銘柄別年齢組成と日本海全体の銘柄別漁獲量から推定した。

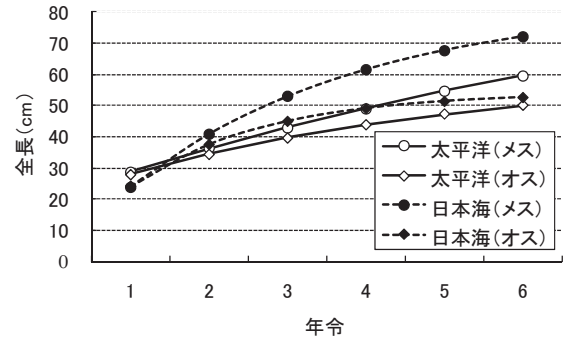


図 青森県におけるヒラメの成長

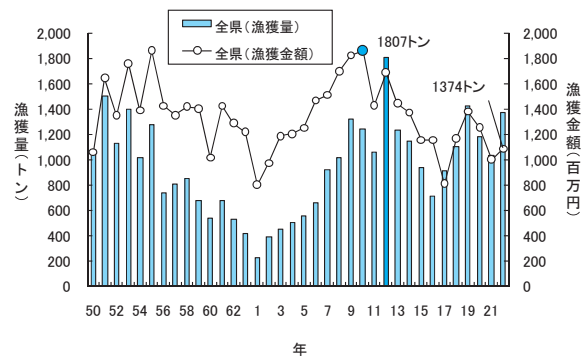


図 青森県におけるヒラメの漁獲量及び漁獲金額の推移

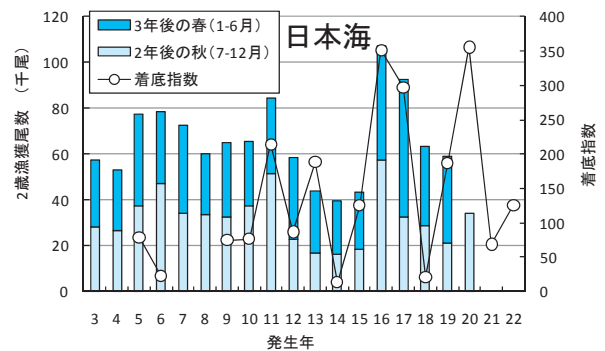


図 青森県日本海ヒラメの着底指数と2歳魚漁獲尾数

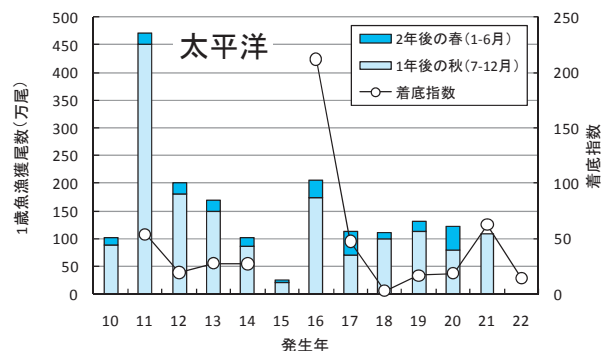


図 青森県太平洋ヒラメの着底指数と1歳魚漁獲尾数

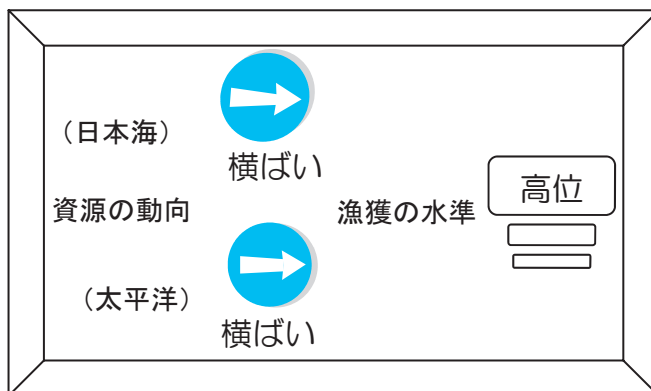
(太平洋)

平成10～20年級群のうち、16年級群は発生量が過去最高で、太平洋の漁獲開始年齢である1歳魚の漁獲尾数が過去2番目に多かった。平成21年の発生量は過去2番目に多く、漁獲尾数は前年よりも多くなった。

* 太平洋には津軽海峡東部を含むものとした。

* 着底指数：発生量の指標値。三沢市沖で夏期に着底稚魚調査を実施。水深別平均分布密度（個体/1,000m²）の年最高値。

* 年齢別資源尾数は7月から12月と1月から6月の2期に分けて集計し、関根浜、三沢及び八戸（小底）の銘柄別全長、八戸の全長別年齢組成、太平洋～海峽東部の漁獲量から推定した。



資源を上手に利用するために

○ひらめ資源管理指針（平成2年3月）、資源管理計画（日本海平成6年3月、太平洋平成8年3月）

- ・全長35cm未満の再放流の他、刺網についてはひらめ網の目合制限（6.0寸以上）、三枚網の禁止、留網の禁止などを定めている。

○青森県太平洋海域ヒラメ資源回復計画（平成20年3月、35ページ参照）

- ・小型ヒラメの保護を推進するため、刺網漁業では9～12月の水深10m以浅の区域、小型機船底びき網漁業は北緯41度以南の水深100m以浅の区域におけるヒラメを目的とした操業の自粛を定めている。

☆上記の取り組みを継続することが必要である。

トピックス

- ・昭和62年に「県の魚」に制定される。
- ・平成2年以降、年間200万尾の計画で種苗放流が行われており、平成22年の放流尾数は228万尾。

海域別漁獲量及び漁獲金額

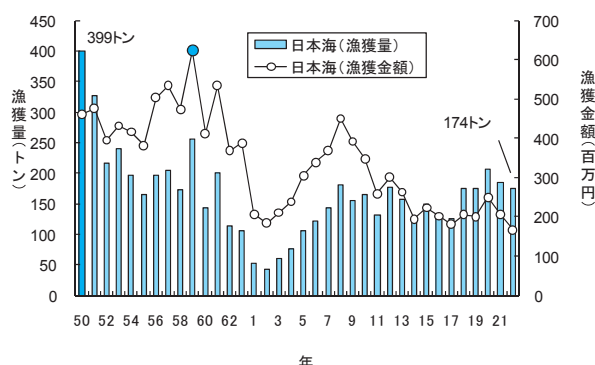
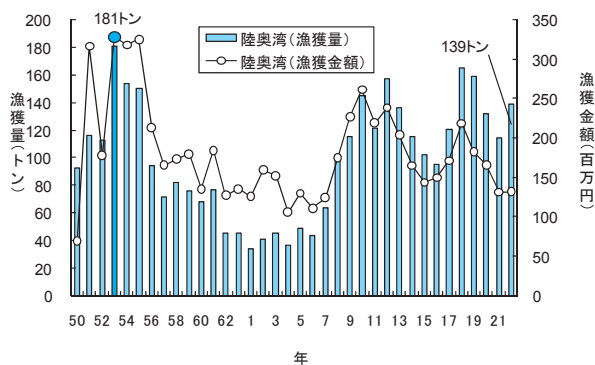
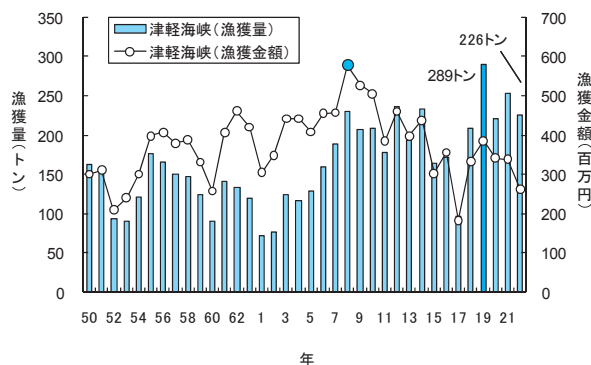
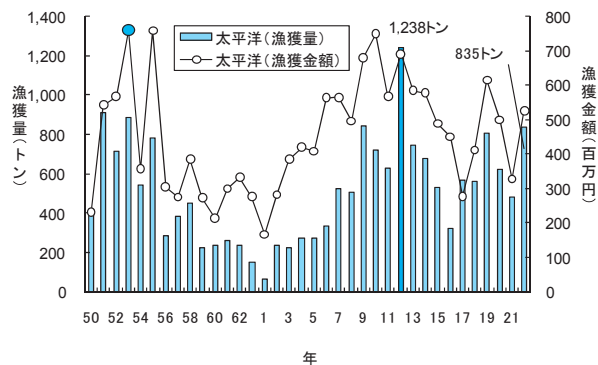


図 青森県におけるヒラメの海域別漁獲量及び漁獲金額の推移